

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は急速に悪化している。

- ・ 鉱工業生産は大幅に減少している。
- ・ 個人消費は緩やかに減少している。
- ・ 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

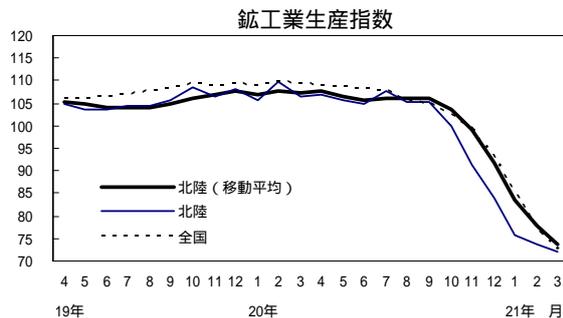
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 21 年 2 月）	今回（平成 21 年 5 月）	
景況判断	極めて急速に悪化	急速に悪化	
鉱工業生産	極めて大幅に減少	大幅に減少	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は大幅に減少している。

一般機械は、建設機械や工作機械を中心に大幅に減少しているものの、建設機械の一部で減少幅が縮小している。電子部品・デバイス、1月は、電子部品や半導体素子を中心に大幅に減少したものの、2、3月は、電子部品が上昇したことから、全体でも上昇した。化学は、医薬品を中心に、減少している。金属製品は、住宅需要の低迷により、建築用金属製品を中心に減少している。繊維は、化学合成繊維織物を中心に、減少している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値、北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

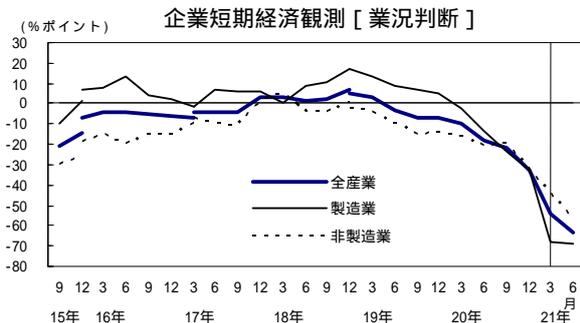
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
一般機械	16.2	17.4	39.5	-	-
電子部品・デバイス	15.8	31.8	31.8	-	-
化学	14.5	7.5	5.1	-	-
金属製品	9.2	3.9	11.1	-	-
繊維	8.5	3.0	15.3	-	-
鉱工業	100.0	13.5	19.6	-	-

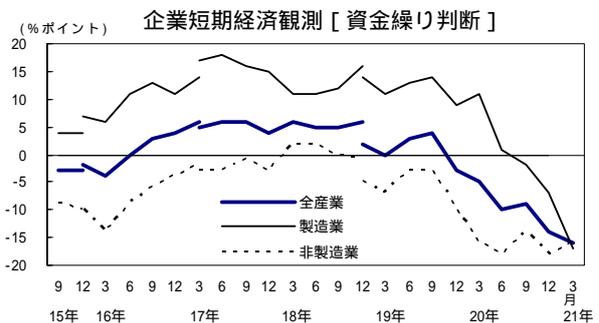
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 1~3月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ拡大している。

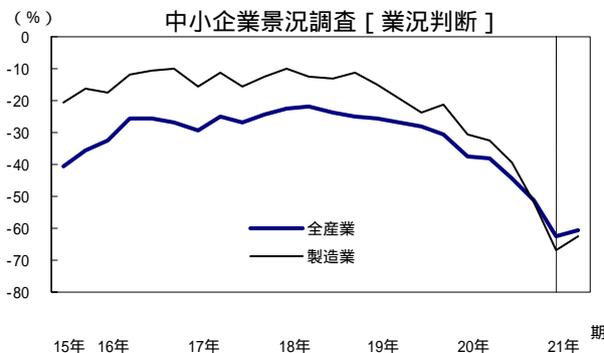
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年6月は予測。
15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月・17年3月および18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

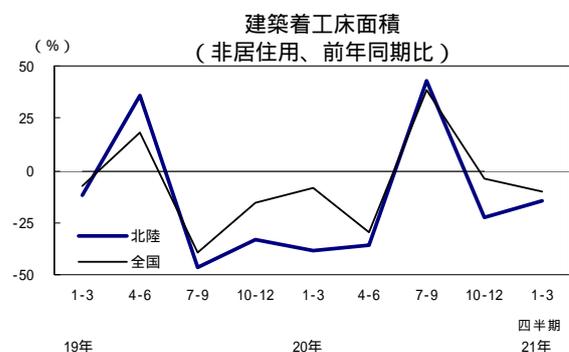
「販売単価の高い商材の販売が落ち込み、廉価品が販売数量を伸ばしている状況が続いている(食料品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多く見られた。

(3) 20年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績見込み	21年度計画
全産業	24.7(8.6)	27.9
製造業	26.2(11.6)	29.3
非製造業	21.2(1.4)	24.8

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに減少している。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、1月は、飲食料品は堅調だったものの、気温が高めに推移したことから、冬物の衣料が振るわず、バーゲン、セールも低調だったため、前年を下回った。2月は、前年の天候不順による売上減少の反動で、全体でマイナス幅は縮小したものの、衣料に加え、今まで堅調だった飲食料品も前年割れし、全体で前年を下回った。3月は、気温が低めに推移し、春物が不調だったことや、新入学シーズン向けの動きが鈍かったことから、衣料品を中心にマイナス幅が拡大した。

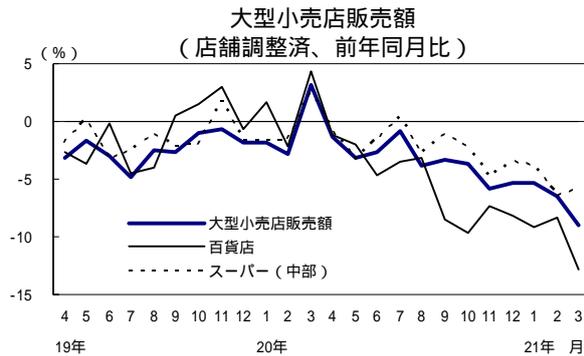
スーパーは、消費者の節約志向の高まりから、飲食料品から衣料品まで、広範に減少した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「土日およびランチタイムの落ち込みが大きくなり低調に推移している。製造業の低迷、ベースアップ凍結など、サラリーマンのランチは手作り弁当になる人が増え、外食回数が減る傾向にある(一般レストラン)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(前年同期比、%)

	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月
大型小売店	2.4	2.6	5.1	6.9
百貨店	2.6	4.9	8.3	10.2
スーパー	1.9	1.3	3.6	5.2
コンビニ	2.1	6.7	5.4	1.9
景気ウォッチャー	32.6	30.9	18.9	22.4

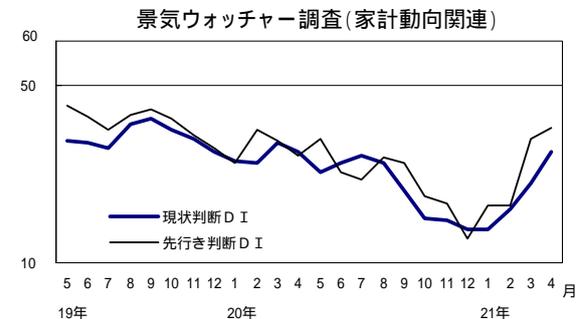
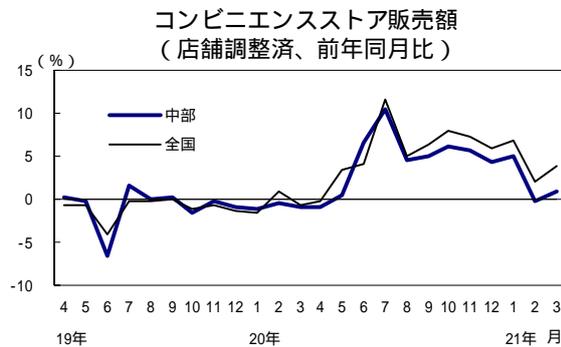


(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

百貨店は日本銀行金沢支店調べ。

スーパー、コンビニは中部地区。

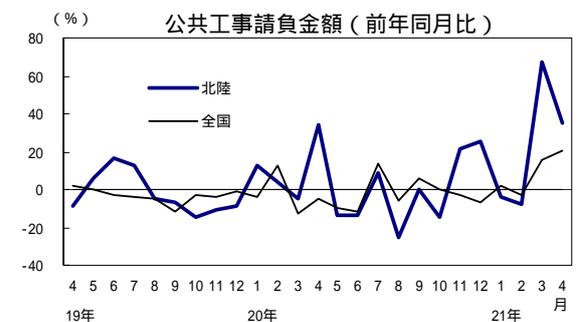
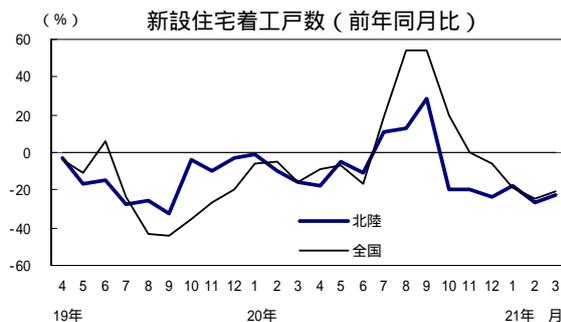
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は20年度累計で見ると前年度を上回っている。

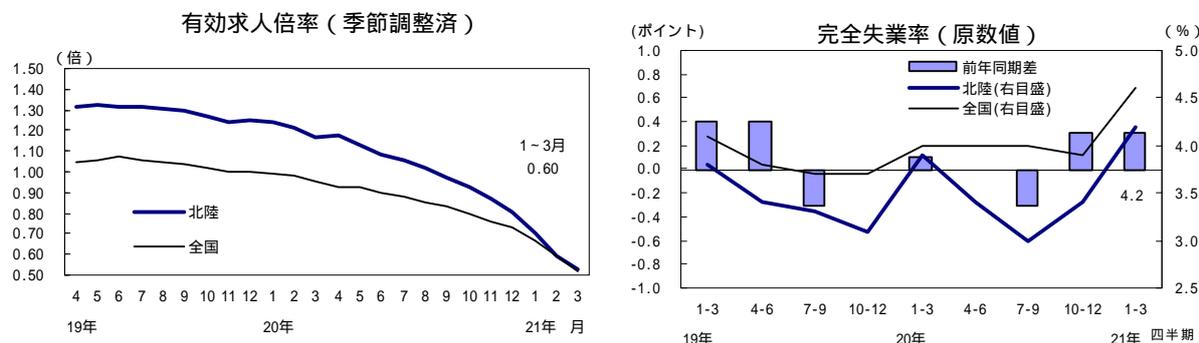


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は極めて急速に悪化しつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

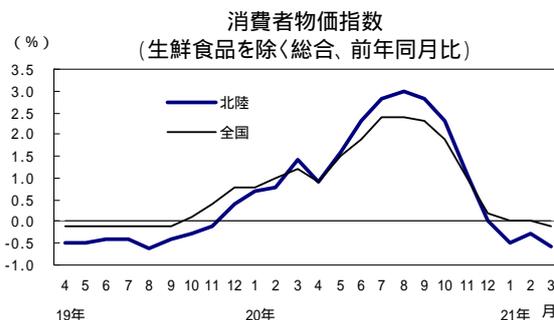
「機械製造系企業が数社、新卒採用者を自宅待機とするなど、雇用情勢は厳しさを増している。また地域密着をうたう地元大手企業が正社員の早期退職に踏み切るなど、現職就労者にとっても厳しい環境となった（新聞社[求人広告]）」など、「悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	（件、億円、％）				
	20年4-6月	7-9月	10-12月	21年1-3月	21年4月
倒産件数	92	109	133	117	32
（前年比）	10.7	53.5	47.8	13.6	10.3
負債総額	316	816	334	565	55
（前年比）	3.7	334.4	27.3	12.6	31.0



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・高速道路料金引下げ、燃油サーチャージの値下げ実施、ゴールデンウィークの曜日の好配列等の影響で、レジャーに対してのムードが高まっている（旅行代理店）

<先行き>

・エコポイントの活用によるグリーン家電普及促進事業により買換え特需が起きる。特にTVはアナログ放送終了まで2年となり、このポイントは期待ができる（家電量販店）

